

ウイメンズ ブックス

第59号

1996年

Women's Books

5月26日発行

女性の本の情報誌・ウイメンズブック友の会会報

ウイメンズブックストア

発行所 有限会社 松香堂書店

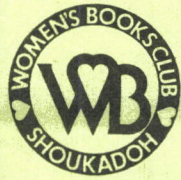
本社 〒602京都市上京区下立売通西洞院西入る
土・日・祝日休み TEL/FAX 075-441-6905天満橋店 〒540大阪市中央区大手前1丁目3番49号
ドンセンター3F

水・祝日代休・日曜休み

TEL/FAX 06-910-8627

郵便 振替口座 01080-0-7950

(入会金800円 年会費個人2,200円 団体3,000円)



このリストの書籍をご希望の方は、同封の振替用紙の通信欄でお申し込み下さい。書籍代は送料共でお振り込みくださいますようお願い致します。

ご注文の本の定価の合計額に、下の表の送料を合わせてお送り下さい。なお、お電話でのご注文も受け付けています。

2,000円まで 400円

2,001円～4,000円まで 500円

4,001円～10,000円まで 600円

10,001円以上 700円

電話・ファックス・お手紙等でのご注文は、天満橋店にお申しつけ下さい。

本誌からの無断転載・コピーはお断りいたします。

Ⅱ 特集 女性と自立：社会を知り、アプローチする Ⅱ

前号ではこころの中を整頓し、自己表現を豊かにする本を紹介しました。そこで今回は、社会の仕組みを知り、外の世界へ飛び立つ手助けとなる本を集めてみました。

『女のグループ 活動資金づくりの本』

財団法人横浜市女性協会編
学陽書房 1993年 1800円

こころざしはあってもお金のない日本女性。本書は女性グループを支援してくれる助成制度や起業方法を紹介。こころざしとお金の両立を考える。

『事業はメッセージ』

WWB/ジャパン著 アドア出版 1994年 1500円

WWBとはWomen's World Bankingのこと。市民バンクとして女性起業家をバックアップしている。育てた起業家たちをレポートし、新しい働き方を模索する。

『女性起業の完璧マニュアル』

財団法人横浜市女性協会編著
日経事業出版社 1995年 1200円

起業したい女性に、その方法を教えてくれる。持っている有利な資格、事業計画、資金調達の仕方など具体的に。参考図書を紹介もあり、何かと便利な本。

『仲間とはじめる「会社」プラン』

－ワーカーズ・コレクティブ入門－

宇津木朋子著 緑風出版 1994年 1854円

ワーカーズ・コレクティブとは「雇われないで、他人と協同して働き、事業する団体」のこと。質疑応答形式でワーカーズ・コレクティブを紹介する書。

『私の夢を実現できる ちょっと違う会社起こし』

あだちゆきこ著 中経出版 1994年 1400円

起業の成功法を伝授。実際に会社を起こした人たちの例もあげ、仕事づくりを目指す女性に「自信を持って」とエールを送っている。

『資本制と家事労働』

上野千鶴子著 海鳴社 1985年 515円

資本制(社会システム)は家庭(個人)を経済の担い手をして巧みに利用している。その矛盾を解き明かし、社会システムの再編が必要であることを説く。

『日本株式会社の女たち』

竹信三恵子著 朝日新聞社 1994年 1200円

日本経済は男性の長時間労働と、切り捨て簡単な女性労働を踏み台に成長している。男女分業経済は本当に効率的なのか。著者の気迫がこもったルポルタージュ。

『労働力の女性化』

竹中恵美子 久場嬉子編 有斐閣 1994年 1957円
女性労働者は増えているが労働の中身はどうか。日本的経営とジェンダーの関係を読み解く一冊。新しい働き方の提案も含め、刺激的な内容になっている。

『ワーキングウーマンのサバイバルガイド』

—働く女性が落ち込みそうになったとき読む本』

福沢恵子著 学陽書房 1992年 1400円
働く女性の悩みを肯定し、元気を分けてくれる。特効薬ともいえる「ワーキング・ウーマンの十戒」はお薦め。仕事に疲れてきたら、倒れる前に一読あれ。

『自治体の女性政策と女性問題講座』

—その取り組み方と創り方』

グループみこし著 学陽書房 1994年 1800円
女性学研究者藤枝濠子と、女性政策に関わる自治体職員で作った「グループみこし」。女性政策、女性センター等について検討、活動してきた成果をまとめた。

『図表でみる女の現在—男女共生への指標』

フォーラム 女性の生活と展望編

ミネルヴァ書房 1994年 2800円

女性を取り巻く状況を分野別に資料収集。家庭、仕事、教育、社会参加、生活、からだ、高齢化など、データを豊富に集めた参考図書。

『現代家族と社会保障』

社会保障研究所編 東京大学出版会 1994年 4532円
日本における社会保障の単位は「家族」。しかしその家族は日々変化している。結婚、出生、育児を中心に問題点を提示。新たな政策作りへの提言を試みる。

『女性と社会保障』

社会保障研究所編 東京大学出版会 1993年 4532円
研究プロジェクト「女性の経済的自立と社会保障」の成果をまとめた書。たてまえ上、男女平等の現在、社会保障がはらむ矛盾点を鋭くついている。

『主婦論争を読む／I 全記録』

上野千鶴子編 勁草書房 1982年 2266円

本書は1955年におきた第1次主婦論争を収録。主婦の戦後史を振り返り、性別役割分担の歴史を知る書。

『主婦論争を読む／II 全記録』

上野千鶴子編 勁草書房 1982年 2270円

第2次から第4次主婦論争を収録。主婦とは何か、解放とは何かを読み解く。

『専業主婦が消える』

末包房子著 同友館 1994年 1500円

自ら専業主婦として優遇されてきた身を振り返り、問題点を指摘。配偶者控除、保険料、年金など、会社員妻への優遇策がはらむ矛盾を、見事に書ききっている。

『配偶者控除なんかいらない?』

—税制を変える、働き方を変える』

全国婦人税理士連盟編 日本評論社 1994年 1648円
サラリーマンの妻が働こうとするときぶつかる「100万円の壁」とは? 配偶者控除が不公平な税制であることを、わかりやすく的確に証す。

『母性を解読する』

グループ・母性解読講座編 有斐閣 1991年 1854円
女はなぜ母にならなければいけないのか。「母になれ」コールのうとうしさを、医療、天皇制、エコロジー等の視点から読み解く。

『これからの結婚と離婚—自分らしく、あなたらしく』

日本弁護士連合会編 明石書店 1994年 3090円
選択的夫婦別姓を具体的に検討。非嫡出子差別や離婚問題にもアプローチ。個を大切に法律作りを目指し、世界各国の例も上げ検討している。

『バックラッシュ—逆襲される女たち』

スーザン・ファルーディ著

伊藤由紀子 加藤真樹子訳 新潮社 1994年 2000円
「フェミニズムこそ女の敵」と情報を操作しているのは誰か。アメリカにおけるバックラッシュの実態を、映画、ファッション、政治等に調査し暴いた書。

『メディア・リテラシー—マスメディアを読み解く』

カナダ・オンタリオ州教育省編

FCT (市民のテレビの会) 訳

リベルタ出版 1992年 3440円

「メディア・リテラシー」とはメディアを読み解く能力のこと。本書はそのハンドブック。情報を主体的に読む力を持つことは、自立への第一歩と教えてくれる。

~~~~~ 58号の訂正とお詫び ~~~~~  
特集記事の中で、値段に間違いがありました。ここに訂正し、おわび申し上げます。

『自立の女性学』 ×1300円→○1339円

『女性のための自己発見学』 ×1300→○1339円

『母と娘の物語』 ×3090円→○3900円

## 最新刊情報

### 【女性問題とは?】

#### 『アジア・太平洋地域の女性政策と女性学』

原ひろ子 前田瑞枝 大沢真理編  
新曜社 1996年2月 10094円

女性学が女性のエンパワーメントにどう貢献しているか、アジア・太平洋各国(日本・韓国・中国・インドネシア・タイ・インド・オーストラリア等)で調査した労作。女性政策を考える上で示唆に富んだ書。

#### 『女性がつくる21世紀—私たちの北京「行動綱領」』

清水澄子 北沢洋子著  
ユック舎 1996年2月 1442円

参議院議員・清水澄子と評論家・北沢洋子が北京会議を振り返り対談。「各国政府のコミットメント」「北京宣言」など貴重な資料付き。会議の裏話、NGO成功の秘訣など、興味深い。

#### 『女性学—人間らしく生きるために』

佐藤延子編著 尚学社 1996年4月 2400円

今、女性が置かれている現状を、意識、法律、労働、老後、性、結婚、相続等のステージ別に考える。色々な女の生き方、多様性を認めるトーンが流れている。

#### 『闘争するフェミニズムへ』

大越愛子著 未来社 1996年2月 2678円

韓国の女性から「フェミニズムは闘争するもの」と教えられた著者。本書は日本文化をフェミニズムの視点で批判する著者の熱意がこもった論文集。

#### 『フェミニズム入門』(新書)

大越愛子著 筑摩書房 1996年3月 680円

「近代自由主義思想の申し子として生まれたフェミニズムも200年を経て、生みの親を転覆させるまでに成長した」(本書より)。フェミニズムの潮流、日本のフェミニズムの展開など、詳しく解説している。

#### 『仏教と性—エロスへの畏怖と差別』

源淳子著 三一書房 1996年1月 2000円

著者は日本固有の性差別構造は、仏教の影響によるところが大きいという。本書は仏教が日本の性文化にもたらした差別構造を解きあかした論文集。

### 【働く】

#### 『アジアで働く法—就職ホット情報』

河添恵子編 学習研究社 1995年9月 1400円

日本を脱出しアジア各国で活躍するビジネスウーマン取材。経済成長中のアジア、男女差別のない職場が魅力ながら、企業戦士のような働き方をするためにアジアに行くのには疑問を感じる。

#### 『上を向いてまわろう—女子学生就職奮戦記』

明智幸子 荒木令奈原作 谷れえこ画  
ほうしょう出版 1996年3月 1200円

厳しい就職活動を経験した女子学生たちの声をふんだんに集めた本。「超氷河期」を生き抜いた彼女たちの知恵は、後輩たちにもきっと役立つだろう。

#### 『女が定年退職するとき』

石田恵子著 径書房 1995年10月 2060円

働く女性が増えた今、定年退職を迎える女たちも多くなる。著者は32年働いた職場を振り返り、ひとり暮らし、病気、老いへの自立など、男の定年後とはひと味違う生活を淡々と綴っている。

#### 『外資系で働く! 女性の仕事カタログ』

小畑美幸編 イカロス出版 1996年4月 1300円

人間関係にドライで、能力で評価してくれるという外資系企業で働くにはどうしたらいいか。採用事情、アプローチの仕方などを具体的に指南してくれる本。

#### 『ザ・海外就職—夢と現実』

有元美津世著 WAVE出版 1996年4月 1500円

アメリカで働く日本女性たちのルポルタージュ。著者自身も在米10年。実力社会とはいえ、人種差別、性差別があるのは日本と同じ。サバイバルの厳しさが描かれている。

#### 『されど忘れえぬ日々—』

日産自動車の男女差別を撤廃させた12年のたたかい』

中本ミヨ著 かのう書房 1996年2月 1800円

定年制の男女差別を12年かけて裁判で闘い、勝利した著者の軌跡。女は男の扶養家族という社会通念をくつがえし、後に続く女性へ道を切り拓いた功績は大きい。

#### 『女子学生ハナマル就職ファイル』

—氷河を溶かした100人の熱い夏』

細田咲江 上田晶美著

日本評論社 1996年3月 1236円

女子学生に就職活動のノウハウをアドバイスする「ハナマルキャリアコンサルタント」を作った著者たち。学生たちとの出会い、活動ぶりを通して、仕事探しは自分さがしから始まると説いている。

## 『女性技術者の現場』

中川靖造著 学習研究社 1996年3月 1800円  
理工系の大学を出て企業の研究員となった女性たちへのインタビューをドキュメント風に綴った。目的を持ち技術を学んでも、賃金格差の壁は大きいという。

## 『'97女性の仕事全カタログ』

自由国民社 1996年4月 1300円  
400職種について詳細にリサーチ。資格の取り方、収入、将来性など、欲しい情報が詰まっている本。

## 『女性の就職、それから』

市川幸子著 一葉社 1996年3月 1339円  
就職後の女性167人にアンケート調査と追跡インタビュー。そこから167通りの人生が見えてくる。著者は、モラトリアム志向の学生たちに「本当に就職する気があるのか」と厳しく問いかけ、かつエールを送る。

## 『超氷河期だって泣き寝入りしない!』

就職難に泣き寝入りしない女子学生の会編  
大月書店 1996年3月 1300円  
女子学生の就職難を「リクルートスーツパレード」でアピールした会が、その主張をまとめた。就職活動の感想だけでなく、労働上の性差別をデータを通して整理するなど、その訴えはストレートでわかりやすい。

## 『働く女性の相談室—仕事を続けたい人たちへ』

安西美津子著 生産性出版 1996年3月 1500円  
日本交通公社で二人目の女性支店長になった著者。出世はしたが、世の中は変わっていないと嘆く。働く女性の問題は日本人の本質を問うていると指摘。後に続く女性たちに勇気を分けてくれる。

## 『ポジティブ・パワーで元気になる』

—「できること」から始めてみよう—  
秋葉ふきこ著 大和出版 1995年11月 1300円  
楽しく働くコツを教えてくれる本。銀行員生活で得た経験をベースに、上司とのつきあい方、職場の人間関係を前向きに処理する方法などを披露。

## 『私たちの就職手帖'97 VOL.16』

私たちの就職手帖編集部編  
実務教育出版 1996年3月 1200円  
毎年女子学生たちが集まり、編集している就職手帖。就職とは自分の生き方を模索すること。不況下で活動するコツを伝授してくれる、ありがたい本。



## 『女性論・エッセイ』

## 『「家族」10人が語るフェミニズム』

月刊家族編集部 家族社 1996年4月 1800円  
月刊家族巻頭エッセーを一冊の本にまとめた。執筆者は樋口恵子、春日キスヨ、河野貴代美など10名。どれも個性的な文章で、楽しい。

## 『私の旅に荷物はない』

マヤ・アンジェロウ著 宮木陽子訳  
立風書房 1996年2月 1500円  
アフリカ系アメリカ人、マヤ・アンジェロウのエッセイ集。苦難の連続を前向きに生きてきた著者の、力に満ちた言葉に勇気づけられる。

## 『私を探す旅—イサドラ・ダンカンを追って』

松原淳子著 文藝春秋 1995年12月 1700円  
人は条件で生きるに非ず、精神と勇気で生きる。著者とイサドラ・ダンカンとの不思議な出会いの旅。

## 『女性史・自伝・評伝』

## 『音楽と女性の歴史』

ソフィー・ドリンカー著 水垣令子訳  
学芸書林 1996年3月 3800円  
アフリカ、アジア等の原始部族社会から、女性は音楽家として活躍していた。女性の作曲家がなぜいないのかという疑問が、この本を書いた動機だという。CDで発売されている女性作曲家の作品一覧が載っている。

## 『女と男の時空 全六巻別巻一—Ⅲ女と男の乱/中世』

岡野治子編 藤原書店 1996年3月 7004円  
女の地獄と救い 川村邦光  
御伽草子における男女関係 佐伯順子  
ほか

## 『女と男の時空 全六巻別巻一—Ⅳ爛熟する女と男/近世』

福田光子編 藤原書店 1995年11月 6800円  
ことわざと女性史 寿岳章子  
家と婚姻の基層を探る 福田光子  
ほか

## 『おんなの昭和史 増補版—平和な明日を求めて』

永原和子 米田佐代子著  
有斐閣 1996年1月 1957円  
前作に更に1985年から1995年までの10年間を加えた増補版。北京での第4回世界女性会議の経過も含め、日本における女性問題の現実を的確に捉えた書。

## 『女の歴史Ⅳ－19世紀1／フェミニズムの誕生』

G・フレズ M・ペロー編 杉村和子

志賀亮一監修 藤原書店 1996年4月 5974円

19世紀のヨーロッパでは、市民社会が大きく変わり、女性にとっても変革の時代であった。どの様にしてフェミニズムが誕生していったのか、時代と女性を探る。

## 『行動する女性 阿仏尼』

長崎 健 濱中 修著

新典社 1996年2月 2000円

日記文学『うたたね』『十六夜日記』を残した阿仏尼、歌よみの家冷泉家の流れをたどる書。意志強く文学的才能に秀でた才女の運命を描く。

## 『しなやかに女たち－婦人民主クラブ50年の歩み』

婦人民主クラブ編

婦人民主クラブ 1996年3月 2000円

1946年に結成された婦人民主クラブ50年の記録。女性運動がどのように起こり、変化していったかよく解る。しなやかに活動してきた女性たちにエールを送りたい。

## 『ジョルジュ・サンドからの手紙』

持田明子編 藤原書店 1996年3月 2987円

19世紀前半、ひと冬スペインのマヨルカ島で過ごしたジョルジュ・サンドとショパン。多彩な人々との交遊を示す書簡も興味深い、愛や友情を巡ってひたむきな真情を吐露する手紙は、読む者を圧倒する。

## 『日本列島女たちの50年』

NHK女性アナウンサー戦後50年プロジェクト編

ドメス出版 1995年12月 1751円

ラジオ深夜便で放送された10人のインタビューが本になった。戦争中の体験の上に、戦後の生き方がある。放送後、大きな反響があったという話は感動的。

## 『女人政治の中世』(新書)

田端泰子著 講談社 1996年3月 650円

女性と政治の関わりを、北条政子、日野富子、武士階級一般の女性を追うことでとらえなおす書。

## 『はじめて出会う女性史』

加美芳子著 はるか書房発行 星雲社発売

1996年3月 1854円

楽しく読める女性史。オール現代語訳が読みやすい。古代から現代まで、いきいきとした女性史が語られているのがうれしい。

## 『待たされた眠り姫－19世紀の女の表象』

平林美都子著 京都修学社 1996年2月 2000円

19世紀、男性詩人や画家は女を表象として使い、殺

してきた。ロバート・ブラウニング、D. G. ロセッティを取上げ、分析し、告発する。

## 『魔女・産婆・看護婦－女性医療家の歴史』

B・エーレンライク D・イングリッシュ著 長瀬久子訳

法政大学出版局 1996年2月 2266円

かつて主導的立場にあった女性医療家が男性専門医に地位を奪い取られた。近代科学の発展とうらはらな女性医療家への鎮圧。医療制度にある性差別を告発する。

## 『レスボスの女王－誘惑者ナタリー・バーネイの肖像』

ジャン・シャロン著 小早川捷子訳

国書刊行会 1996年3月 2700円

20世紀初頭に活躍したナタリー・バーネイの生涯を描く。彼女は作家としてよりもレスビアンとして名高い。晩年の恋人シャロンが素晴らしい評伝に仕上げた。

## 【こころ】

## 『アダルト・チルドレンと家族

－心のなかの子どもを癒す』

斎藤 学著 学陽書房 1996年4月 1600円

アダルト・チルドレンとは、安全な場所として機能していない家族で育った人々のこと(本書より)。著者は精神科医。機能不全家族内での共依存を断ち切り、人間関係を作り直す過程を追う。

## 『ありがちな心理療法の失敗例101

－もしかして逆転移?』

リチャード・C・ロバーティエロ他著 児島達美他訳

星和書店 1995年9月 3440円

セラピスト自身の問題が未解決のまま治療に応じると、セラピストがクライアントに向け感情を出してしまう(逆転移)。成功例のみ報告される心理療法の中で、失敗例を集め転移と逆転移を分析する。

## 『「家族愛」、その精神病理』

大原健士郎著 講談社 1996年2月 1500円

社会が複雑化するとともに家族の形態も多様化してきた。新しい家族の形態と機能を、精神病理学の視点から考察する。

## 『幸せがこわれるとき

－ある女性セラピストの鬱病体験』

マーサ・マニング著 吉田利子訳

ジャパンタイムス 1996年3月 1800円

仕事にも家庭にも恵まれパワフルに日々を過ごすマーサ。ある日、彼女は燃えつき、幸せな日々が崩される。重度の鬱病との闘い、そして克服が、セラピストである著者自身の言葉によって生々しく語られる。

## 『自閉症だったわたしへ』

ドナ・ウィリアムズ著 河野万里子訳  
新潮社 1993年10月 2000円

本書は自閉症の著者が語る自伝。症状を外側から観察・分析することではつかみきれない内面的体験が描かれている。

## 『女性のメンタルヘルス』

藤本 修 荒賀文子他著  
創元社 1996年4月 1600円

女性のライフサイクルに応じた身体と心、性にかかわるトラブルをわかりやすく解説。専門的立場から臨床事例を取り上げ、解決法を考える書。

## 『レッド・ホット・ママ』

ーいま、変わろうとする女たちへ』

コレット・ダウリング著 落合恵子監修  
徳間書店 1996年3月 1500円

『レッド・ホット・ママ』とは「元気はつらつと、熱く燃えている大人の女性」という意味。『シンデレラコンプレックス』から15年。著者は50代の女性に向けて、積極的に人生を生きようと呼びかけている。

## 【か ら だ】

## 『エイズQ&amp;A100ーHIVに感染した4人の若者へのインタビューとエイズの基礎知識のすべて』

マイケル・トーマス・フォード著 桜井賢樹監修  
アーニ出版 1996年4月 1648円

HIVに感染した若者へのインタビューで著者が訴えたかったのは、HIVが対岸の火事ではないという事。予防の知識だけでなく、今、現実起こっていることを感じとってほしいという著者の願いが伝わってくる。

## 『更年期かしら』

ーターニングポイントの体・心・暮らし』

堂園涼子著 主婦の友社 1995年11月 1300円  
更年期を巡る病気、心、セックス、生き方などを、語りかける説得力のある医学書。読者はどこかに思い当たる箇所を見つけるはず。

## 『更年期をのりきる女性健康手帖』

野末悦子著 大月書店 1996年3月 1300円  
手帖サイズで書き込みもできるコンパクトな本。更年期の症状を通して自分の体とのつきあい方をチェックする。

## 『子宮筋腫・女のからだの常識』

渡辺優子著 河出書房新社 1996年2月 1800円  
著者は子宮筋腫にかかり病院に行く中で、医療現場が医師中心の世界であることに驚く。子宮筋腫体験者の会「たんぼぼ横浜」を作り、納得のいく治療を求めた著者の熱意が伝わってくる。

## 『ドキュメント子宮内膜症』

中山あゆみ著 法研 1996年4月 1200円  
突然の入院と手術。その一切があっけらかんと語られる。子宮内膜症とのつきあい方、医療現場、便利な入院用品など、笑いながら読める本も珍しい。

## 【セクシュアリティ】

## 『女から男になったワタシ』

虎井まさ衛著 青弓社 1996年4月 1854円  
男性の脳に女性の体を持つ著者。心身の性の不一致による苦しみ、性転換によって本当の自分を得た喜び、メディアに歪められた性転換者たちの本当の姿などを、ウィットに富んだ語り口で綴る。

## 『セックス・イン・アメリカーはじめての実態調査』

ロバート・T・マイケル他著 近藤隆文訳  
上野千鶴子解説 NHK出版 1996年2月 2400円  
「真の科学的な」セックス調査レポートとうたった書。平均的なアメリカ人は、アメリカの性の神話に反してつましい性生活を送っていることを発見していく。

## 『ニュー・セクソロジー・ノート』

村瀬幸浩編著 東山書房 1996年3月 2500円  
学生や一般読者向けの系統立てたセクソロジー（性科学）入門書。セクシュアリティの分野を多角的に捉え、解説している。

## 【パートナーシップ】

## 『ある夫婦のかたち』

本岡典子著 三五館 1996年4月 1200円  
性は心を生きたことと著者はいう。中高年女性の更年期に、夫婦の関係が反映する事例をノンフィクションで記す。更年期医療の現在も追う。

## 『回想よし兵衛』

河崎俊夫著 築地書館 1996年1月 1957円  
二人は「よし兵衛」「トシオ」と呼び合う仲のいい夫婦＝相棒。よし兵衛が急死し、夫の喪失感は深い。思い出を書き、自らを癒していく夫。本書はその回想録。

## 『カップルをめぐる13の物語／上下

-創造性とパートナーシップ』

ホイットニー・チャドウィック他著 野中邦子他訳

平凡社 1996年3月 各1900円

カミーユ・クロードとロダン、リリアン・ヘルマンとダシール・ハメットなど、芸術家のカップル13組を取り上げた本。ジェンダーと創造性との関係を考えてなかったという著者。読みものとしても面白い。

## 『配偶者をうしなうということ』

河合千恵子編 日本文芸社 1996年3月 1300円

妻、夫に先立たれたときのショックや悲しみは大きい。残された伴侶の手記と、心の癒し方を紹介している。

## 【結婚・離婚】

## 『夫は定年 妻はストレス』

清水博子著 青木書店 1996年2月 1545円

日本的甘えの構造を持つ夫と、甘えさせてしまう妻の共犯関係。中高年女性のストレスを解きほぐす、女性のためのグループ・カウンセリングを紹介。著者の自省に重ねて記されているだけに、説得力がある。

## 『妻たちが別れを告げるとき

-熟年離婚の七つのケース』

鈴木喜久子著 河出書房新社 1996年1月 1400円

女と男が長く結婚制度の中にいる限り、熟年離婚が増えるのは当たり前では？ 妻からの離婚申し立てと共に、夫からの離婚も増えているという。

## 『リストラ離婚 妻が夫を捨てるとき』

池内ひろ美著 双葉社 1996年2月 1200円

「弱い妻」を「強い夫」からどう守るかという従来の離婚パターンから、妻が夫をリストラして人生を再構築する視点に立つ。体験談を元に結婚・離婚を考える。

## 【出産・子育て】

## 『赤ちゃんを愛せない

-マタニティ・ブルーをのりこえる12章』

カレン・R・クレイマン ヴァレリー・D・ラスキン著

村本邦子 山口知子訳 創元社 1996年2月 1800円

マタニティ・ブルーの女性たちにその処方箋、回復へのプロセスを丁寧に語りかける。ネガティブな思考から抜け出すコツと、周囲に助けを求める大切さを解く。

## 『あなたのからだ、あなたの赤ちゃん

-アクティブ・バースのすすめ』

シモン・タイナン著 野呂香代子訳

メディカ出版 1995年10月 2300円

出産の知識を得るのによってつけの本。著者は日本に来て、医師の言いなり出産が多いのに驚いたという。自分に合った生み方は、自分で決めようという著者の願いが込められている。

## 『凍りついた瞳が見つめるもの

-被虐待児からのメッセージ』

椎名篤子編 集英社 1995年11月 1200円

『親になるほど難しいことはない』を漫画化した『凍りついた瞳』への反響をまとめたもの。集まったのは「大人になった被虐待児」からの声。専門家による章もあり、傷を癒す方法も一緒に考える。

## 『'96子どもとでかける大阪あそび場ガイド』

TRYあんぐる著 丸善メイツ 1996年3月 1500円

親子が思いっきり遊べる場所を詳しくガイド。交通の便や入場料、食堂の有無、トイレの様子までチェック。とっておきの遊び場がいっぱいの本。

## 『子どもとでかける兵庫あそび場ガイド』

TRYあんぐる著 丸善メイツ 1996年3月 1500円

上記の本の兵庫県版。他にも北海道、東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、福岡版(各1500円)があります。

## 『産婆さん、50年やりましたー前田たまゑ物語』

井上理津子著 筑摩書房 1996年1月 1600円

50年間に8000人以上の赤ちゃんを取り上げた産婆・前田たまゑの一代記。戦前から戦後にかけての出産ドラマを方言混じりで生き生きと記すドキュメンタリー。

## 『シングルマザーを選ぶとき』

ジューン・マテス著 鶴田知佳子訳

草思社 1996年2月 1500円

シングル・マザーの全国組織「シングルマザーズ・バイ・チョイス」を作った著者。シングルマザーが抱える問題の解決法を探る。従来の家族のあり方が問い直されていることを感じる。

## 『目で見る育児レッスン／赤ちゃん手帳③』

細谷亮太監修 講談社 1996年3月 1200円

初めて赤ちゃんを迎えるママとパパのための本。誕生から12ヶ月までを追って説明。写真がふんだんに使われ、わかりやすい。

## 『わかりやすいお父さんの育児BOOK』

男の育児参加を考える会編著

梧桐書院 1995年10月 1200円

子育てに参加したいパパたちが書いた育児ブック。妻とのパートナーシップ、子どもを受容する育て方など、技術面だけでなく、関係を育てる育児を考えている。

## [子ども]

## 『あきらめなかった少女たち』

保坂展人 山本ななえ編著  
 リオン社発行 二見書房発売 1996年3月 1300円  
 学校での人間関係に疲れている女の子たちの声を集めた。留守番電話サービス「ハートボイス」に残されたメッセージをもとに、学校でのいじめを考える。

## 『おとなのための子どもの権利条約』

—新しい発想これからの実践—  
 鈴木祥蔵他著 解放出版社 1996年2月 1751円  
 子どもは大人の所有物ではない。「子どもの権利条約」は、大人たちに子ども観の転換を促している。本書はそのメッセージを大人に向けて発している。

## 『親子で読もうよ「子どもの権利条約」』

矢倉久泰著 ジャパンマシニスト社  
 1995年11月 721円  
 「子どもの権利」といっても、日本では学校の先生でも解っているのか疑わしい。学校での体罰、いじめなど、子どもたちの権利や人権の問題をわかりやすく記している。

## 『学童保育のハンドブック』

全国学童保育連絡協議会編  
 一声社 1995年10月 1236円  
 共働き、母子・父子家庭の子どもたちが、放課後や学校がない日に通う学童保育。本書は学童の内容、運営方法など、知りたいことがわかる。

## 『子どもの権利・親の権利』

—「子どもの権利条約」をよむ—  
 小沢牧子著  
 日外アソシエーツ発行 紀伊國屋書店発売  
 1996年1月 1380円  
 大人も子どもも大切にされる社会を目指して、「子どもの権利条約」を読みとく。著者は女性が自立することの重要性を解いている。

## 『子どもはなぜ学校に行くのか』

渡辺 位著 教育史料出版会 1996年1月 1545円  
 学校に行かない子どもの側に立ち、学校こそが間違っていると言い切る著者。普通であることや常識を問い直し、あるがままの「子育て」につきあおうと呼びかける講演録。

## 『自分をまもる本—いじめ、もうがまんしない』

ローズマリー・ストーンズ著 小島希里訳  
 晶文社 1995年12月 980円

子ども向けに書かれたいじめへの対処法。自分をありのままに肯定することや、誰かに助けを求めることの重要性が、暖かいイラストと共に書かれている。大人にも読んで欲しい本。

## 『まちがいたらけの予防接種』

藤井俊介著 さいろ社 1995年3月 1339円  
 予防接種は本当に安全で必要なのか？ わが子に接種するかどうかは親の責任になった今も、安全性や必要性は曖昧なまま。本書はデータを幅広く集め、判断のための資料を提供している。

## [児童文学]

## 『ごめん』

ひこ・田中著 偕成社 1996年1月 1800円  
 『お引越し』『カレンダー』を書いた著者の最新作。今回の主人公は男の子。性の目覚めと、初恋をカラッと描いている。

## [法 律]

## 『家族手当の研究』

—児童手当から家族政策を展望する—  
 大塩まゆみ著 法律文化社 1996年3月 8240円  
 著者は日本における女性の貧困化の実態から、このテーマに向かったという。日本の児童手当の問題点を探り、世界の家族手当の形成や現状なども検討する。本号書評欄参照。

## 『変わる「家族法」(ブックレット)』

二宮周平著 かがわ出版 1996年3月 550円  
 戦前から引きずっている日本の家制度、結婚制度について簡明に解説。夫婦別姓の必要性、戸籍についての問題点がわかりやすく語られている。

## 『女性の公的年金・保険手続き早わかり』

小嶋広喜 橋本正子著  
 大泉書店 1996年2月 1000円  
 わかりにくい年金・保険の仕組みをわかりやすく簡潔に説明。「知らないと損をする15のマル得情報」など、生活に密着した情報を満載している。

## 『新編 女性のための法学』

中川 淳編 世界思想社 1996年5月 1680円  
 法律の基礎知識を得たい人にお薦めの書。女性の地位に関するもの、婚姻・離婚、財産、地域生活、消費生活、そして憲法まで、わかりやすく解説している。



## 『夫婦法の世界』

水谷英夫 小島妙子編

新山社発行 大学図書発売 1995年12月 2600円

夫婦関係の開始から終了に至るまでの法律をQ&A方式で具体的に述べている。事実婚や別姓が増えている現在、法律はどうなるのかと未来への考察もしている。

## 『ライフステージと法』

武田万里子他著 有斐閣 1996年3月 1648円

あらゆるライフステージに女性差別がある。就職、職場、恋愛、結婚、出産、性、育児、離婚、介護、社会参画など、各ステージの法律案内。若い人にぜひ読んで欲しい一冊。

## [批評]

## 『アメリカ短編小説を読み直す』

-女性・家族・エスニシティ』

日本マラッド協会編

北星堂書店 1996年4月 2600円

短編小説を通して、アメリカ社会を読み解く。アリス・ウォーカーやドリス・ベッツなど女性作家も含め、女性、家族、民族をテーマに作品論を繰り広げている。

## 『家なき子の物語』

-アメリカ古典児童文学にみる子どもの成長』

ジェリー・グリスウォールド著 遠藤育枝他訳

阿吽社 1995年9月 3960円

『若草物語』『オズの魔法使い』などアメリカ古典児童文学を、心理学的アプローチで読み解く。12冊の児童書を詳細に検証し、親と子の葛藤、独立心などをアメリカ社会との関係を通し描いた力作。

## 『女性のためのギリシア神話』

三枝和子著 角川書店 1995年11月 1800円

ローマ経由ではないギリシア神話を解説。大地と空のまぐわい-天地創造からオリンポスの12神、男神女神について壮大な物語を繰り広げる。

## 『美女のイメージ』

児玉美意子 人間文化研究所編

世界思想社 1996年2月 2300円

美術史、歴史、国文、コミュニケーションなどの分野から美女のイメージを分析。女性の手による日記文学を女の目で見直すことによって、通説とされてきた美女、悪女のイメージを逆転させるところが興味深い。



## [ブックガイド]

## 『女性問題図書総目録1996』

女性問題図書総目録刊行会 1996年4月 300円

2143点の女性問題図書を紹介。「くらし」、「家・家族」、「性・からだ」など15の項目に分かれ、解説もついて便利なブックガイド。

## 『図書館に備えてほしい本の目録 1995年版』

日本書籍出版協会 日本図書館協会

1995年10月 300円

昨年開かれた全国図書館大会の目録。「ヤングアダルト」「世界の絵本」等に分け選書。各分野ごとに「自分を見つめる」等の項目にも分かれ、楽しめる。

## [メディア]

## 『アメリカに生きる女たち』

-雑誌広告にみるアメリカ女性像』

片岡義男著 研究社出版 1995年12月 2800円

1949年から1995年の雑誌広告に現れた女性の姿を収録。ジェンダーの視点がはっきりしていればより面白くなったと思うが、アメリカにおける生活の歴史はよく解る。

## 『きつと変えられる性差別語-私たちのガイドライン』

上野千鶴子 メディアの中の性差別を考える会編

三省堂 1996年4月 1500円

新聞から気になる表現を拾い出し、対案を提示する書。表現と差別の関係を考える上で大いに参考になる。アメリカにおける性差別語ガイドライン運動の現状報告もあり、実際的に出来ている。

## 『ビデオジャーナリズム入門』

野中章弘 (財)横浜市海外交通協会編

はる書房 1996年1月 2000円

8ミリビデオによるジャーナリズムの現状と未来を語る。ビデオによる取材でメディアをどう変革していくか。市民のためのメディア作りを目指す本。

## [小説・短歌・詩集など]

## 『出雲王朝挽歌』

三枝和子著 読売新聞社 1996年2月 1300円

須佐之男と大国主を軸に、出雲王朝の繁栄の過程を描く。太古の歴史を女性の視点で素晴らしい物語に仕上げている。平和を愛した出雲の神々が生き生きと甦る。



## 『岡部伊都子集1ーいのちの襲』

岡部伊都子著 岩波書店 1996年4月 3000円

「いとはんさいなら」「いのちの襲」「いきるこだま」など7編を収録。著者の作品は時を経て益々心に響くものがある。全5巻の完結が待たれる。

## 『くどうなおこ詩集〇』

くどうなおこ 童話屋 1996年3月 1250円

代表作「てつがくのらいおん」「ちびへび」や未発表の詩も収めた作品集。虫や動物、自然が大好きな著者の気持ちが伝わってくる。

## 『食のうた彩事記』

道浦母都子著 彌生書房 1995年10月 1800円

旬の食物をよんだ短歌を一首選び、それに著者がエッセイを書く。朝日新聞の夕刊に連載していたものをまとめた一冊。みずみずしい著者の感性が伝わってくる。

## 『食べられる女』

マーガレット・アトウッド著 大浦暁生訳 新潮社 1996年2月 2400円

「私はだれ?」と自分探しをする女主人公。恋人との結婚で食べられてしまったアイデンティティを取り戻そうとあえぐ。『侍女の物語』で名高い著者の初作品。

## 『選ばれし者』

バーニス・ルーベンス著 鈴木和子訳 YMS創流社 1996年3月 2400円

麻薬による幻覚に襲われる41歳のノーマンは、かつては天才少年といわれた。両親の愛と期待に押しつぶされてしまう彼。家族を深く愛しながらどこか心を病む人々。ブッカー賞受賞作。

## 『ボースコールより愛をこめて』

バーニス・ルーベンス著 山内照子訳 YMS創流社 1995年12月 2400円

車椅子の兄と暮らすエイミーは、結婚せずに年を重ねる寂しさから文通相手を求める。その行方は…? ウェールズの海岸町ボースコールを舞台に、愛と憎しみの葛藤を描いて評判になった小説。

## 『ボンソンビー・ポスト』

バーニス・ルーベンス著 宮澤邦子訳 YMS創流社 1996年11月 2400円

インドネシアを舞台に社会の悪に立ち向かう主人公。途上国援助の実情に疑問を持つ彼に、次々と謎の事件が襲いかかる。女性作家によるヒューマンな国際政治冒険小説。

## 『男性問題』

## 『「男らしさ」からの自由』

中村 正著 かもがわ出版 1996年2月 550円  
今注目の男性学についてわかりやすく説明。欧米の事例をもとに、生き方を模索する男性たちの現在を追う。

## 『結婚しないかもしれない症候群 男性版』

谷村志穂著 主婦の友社 1996年4月 1300円  
『結婚しないかもしれない症候群』から6年。20人に及ぶ男性にインタビューした新作。「結婚しないかもしれない」男性の心の内を垣間みる。

## 『高齢社会』

## 『老いを生きるためのヒント』

ーアメリカに暮らす日本人たちの老後』  
斎藤弘子 マサミ・コバヤシ・ウィーズナー著  
ジャパントイムス 1996年4月 1500円  
在米日本人、日系人はアメリカでどのようなシニアライフを送っているのか。積極的に年を重ねている側面を主軸にレポートしている。

## 『高齢者と家族ー高齢社会への対応と家族の役割』

上野谷加代子 村川浩一編  
中央法規出版 1996年3月 3000円  
超高齢社会へ向かっている日本社会には、家族関係、介護問題など転換を迫られる課題が多い。今後の問題と展望はどうか、模索している。

## 『福祉・障害』

## 『看護ーベッドサイドの光景』(新書)

増田れい子著 岩波書店 1996年1月 650円  
人間は誰しも病むこと、死ぬことに遭遇する。その時、入院治療は? 患者の側で激務をこなすナースたちの姿を、暖かい目で綴る。生と死をも考えさせる本。

## 『スウェーデンを検証する』

岡沢憲美著 早稲田大学出版部  
1996年1月 2000円  
スウェーデンモデルが今、スウェーデン自身によって検証されている。福祉、労働、政治等、評価されてきたモデルがどこへ向かおうとしているか見定める。

## 『生活保護ケースワーカー奮闘記』

ー豊かな日本の見えない貧困』  
三矢陽子著 ミネルヴァ書房 1996年3月 1854円  
最前線のケースワーカーが書いた、日本の生活保護の現状レポート。個人の努力だけでは解決できない現状

や、これからに向かっての提言書。関連資料も収録。

### 『全国ボランティアグループ・団体ガイド』

ボランティア活動研究会編  
メディアパル 1995年7月 1750円  
国際協力・海外NGOから高齢者福祉、カウンセリ  
ング等、ジャンルを20に分け1200の団体を紹介。活動内  
容や連絡先など、データが一目でわかるようになって  
いる。

### 『わかりやすい介護休業法』

労働省婦人局婦人福祉課編著  
有斐閣 1996年4月 927円  
高齢社会となった日本で、介護休業法が昨年成立した。  
本書はその解説書。28の質問に答える形でわかりやす  
く説明。労使協定の事例、各種の届出様式など、実用  
的に出来ている。

### [戦争・従軍慰安婦問題]

#### 『「慰安婦」への償いとは何か—国民基金を考える』

大島孝一他編 明石書店 1996年3月 1880円  
「女性のためのアジア平和国民基金」の問題点を提起  
する書。国による戦後補償が早く始まることを願って、  
本書は編まれた。

#### 『文玉珠 ビルマ戦線植師団の「慰安婦」だった私』

文玉珠：語り 森川万智子：構成と解説  
梨の木舎 1996年2月 1751円  
朝鮮半島からビルマまで、日本軍に連れ歩かされた  
「慰安婦」としての日々と、戦後の生き難さ。語るこ  
とが歴史を明らかにする。

### [暮ら し]

#### 『女の子のひとり暮らし安全マニュアル』

有働義彦編 学習研究社 1996年3月 1400円  
女性のひとり暮らしにつきもののトラブル対処法、未  
然に防ぐ方法などを満載。イタズラ電話や勧誘、盗難  
etc.にめげず、ひとり暮らしのための本。

#### 『からだと環境を守る暮らしのアイデア』

霧田栄著作 ジャパンタイムズ 1996年3月 1500円  
毎日の暮らしをシンプルで安全に過ごすためのアイディ  
ア集。私たちの暮らしがいかにかに有害物質によって汚染  
されているかがよくわかる。

#### 『ゆけゆけ! シングルウーマン』

株式会社造事務所編著 翔泳社 1996年3月 1200円  
「今のところ結婚の予定なし」&「金ナシ・家ナシ・

男ナシ」シングルウーマンにエールを送る本。恋愛、  
転職、仕事、健康などについてアドバイスを集めてい  
る。

#### 『私にもできる!—家中のメンテナンスとリフォーム』

ハンディー・ウーマン著  
文化出版局 1995年10月 1300円  
大工道具の使い方から棚の作り方、家のメンテナンス  
の仕方などを、イラスト入りで教えてくれる本。トイ  
レ詰まりの直し方など、役に立つ情報がいっぱい。

### [そ の 他]

#### 『個人と共同体の社会科学—近代における社会と人間』

竹中恵美子 中西洋他編著  
ミネルヴァ書房 1996年3月 5000円  
社会政策総論へのジェンダー・アプローチ 大沢真理  
「家族賃金」観念の現代的意味 木本喜美子  
家事労働論の新段階 竹中恵美子  
ほか

#### 『生殖革命と人権—産むことに自由はあるのか』

金城清子著 中央公論社 1996年2月 680円  
女性の生き方を変える生殖技術の変化には目を見張る  
ものがある。しかしそこで女性の人権は保障されてい  
るのか。諸外国の例を引き、的確な示唆を与える書。

#### 『阪神大震災と外国人』

—「多文化共生社会」の現状と可能性』  
外国人地震情報センター編  
明石書店 1996年1月 1700円  
阪神淡路大震災から一年余。神戸に住む多文化、多民  
族の人々のその後を追う。センターに関わったボラン  
ティアは400人。今も共生の場として活動を続けている。

#### 『阪神大震災で学んだこと—わたしの仕事・別巻』

今井美沙子 今井祝雄(写真)著  
理論社 1996年1月 1500円  
以前『わたしの仕事』に登場した人の中から、阪神淡  
路大震災で被災した20人を訪ねた本。働く人たちにと  
つての震災が、肉声で伝わって来る。

### [資 料]

#### 『「開発と女性」に関する』

第2回アジア・太平洋大臣会議及び関連事業等報告書』  
総理府男女共同参画室編  
大蔵省印刷局 1996年2月 1300円

## あなたの情報・わたしの情報

### 夏の女性学シンポジウム予告!

#### 第11回 女性学シンポジウム

#### フェミニズムと買売春—売春防止法から40年

今年は売防法から40年。売春防止法は女性を分断してきたのではなかったか。

女性の自立が最後に行き着くところは性の問題。「ふしだら」とは何か。男はなぜ処罰されないのか。労働としての「セックスワーク」は? フェミニズムは買売春をどうとらえてきたのか。女性の自立をめぐる、率直に語り合いたいと思います。コーディネーターは段林和江さん(弁護士)、パネリストは深江誠子さん、米田眞澄さん、北村三津子さんです。

とき: 1996年7月7日(日) 10:30~16:00

ところ: 京都アスニー(京都市生涯学習総合センター)

主催: (財)京都市社会教育振興財団

京都市生涯学習総合センター

問い合わせはフェミニネット企画

(TEL075-212-9071)まで。

#### マイマイ族29号 特集「都合のいい男」と「北京・1995夏・NGO女性フォーラム」 鈴木美和子

巻頭特集には20代から60代までの9人に手記が並びます。「都合のいい」なんてちょっと失礼な言いぐさですが、それぞれの立場や環境によって、その言葉の意味するところも発想もまるで違ってきます。笑いつつ、一緒に考えて下さい。

また、北京・NGO女性フォーラムへの参加の動機

や立場が様々な3人(東京・新潟・大阪在住)の体験記には、読み応えがあります。公の報告書には書けない本音が続出で、学習会の教材用にお勧めです。

他に、著者による『軍国少女の日記』紹介、連載エッセイ、猫新聞等々、楽しい読み物が満載です。

B5版・50ページ 1部300円(送料別)

申込先: 〒201東京都狛江市東野川4-26-14

TEL 03-3489-3979 FAX 03-3489-0933

(松香堂でも扱っています)

#### 『詩集 震災から』

西海ゆう子

あの日天災は一瞬にして/誰も平等に/貧富老若男女を問わず/その厄災をもたらすものと感じたが/それが大に見当外れであることを/日々/知らしめられた(「ふたたびの」より)

何故/こうも老いた女ばかりが/その犠牲にならなければならなかったのか/(「女が老いる」より)

国際都市(疑問)神戸にふさわしく、ハンブル、中国語、英語の翻訳付。¥(値段)はカンパ。売上はすべて被災した女性へのカンパにあてさせていただきます。ご協力ください。

あわせて『女たちが語る阪神大震災』(ウイメンズネット・こうべ編、1200円、木馬書館)も読んでください。

連絡先: 兵庫県川西市東畦野山手1-10-31

※『詩集 震災から』は小社では取り扱いして

おりません。著者に直接お問い合わせ下さい。

### Information from SHOKADO

- ◎緑濃い季節、皆さまお元気ですか。今年度会費未納の方、恐れ入りますが至急にお振込み下さい。
- ◎『Japanese Woman Now II』を近く発売します。英文で日本女性の現状を報告しています。講座テキストにも最適です。
- ◎都合により、天満橋店も日曜を休業と致します。

#### 前ページから続き

#### 『ジェンダーと人間開発

—人間開発報告書1995日本語版—

広野良吉他監修

国際協力出版会発行 古今書院 1996年1月 3800円

本書のキーワードは、ジェンダー、エンパワーメント、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ。UNPP(国連開発計画)のこの報告書は、豊富な資料をもとに女性の経済貢献がいかに過少評価されているかを著している。

#### 『女性参政資料集1995年版

—全地方議会女性議員の現状—

財団法人市川房枝記念会編発行 1996年1月 2000円

#### 『文庫になった本』

#### 『買い物しすぎる女たち』

キャロリン・ウェッソン著

講談社 1996年2月 940円

— 海外だより —

## バングラデシュの 女性とパルダ

浜本 幸子

バングラデシュは亜熱帯から熱帯に位置し、最低気温の平均は約21℃。4月から10月は平均30℃を超える。おまけに湿度が90～95%にまで上昇する。日本の蒸し暑さになれていても、日中戸外に長時間いると、からだも頭も思うように動かなくなるほどの暑さである。このような厳しい気候状況の中でも、この写真(写真①)のように頭から足まで覆うブルカ(burka)とよばれる黒い衣装を身につけた女性を見かけることがある。首都ダッカなどの都市部では、最近ではブルカ姿の女性をあまり見かけなくなっているようだが、厳格な家庭の女性は外出の際、服の上にこれをまもって出かけるのである。しかし、30℃を超える気温の中でこのブルカを着ていることは、かなり大変なことだと推察できる。実際、この写真の女性も話をしながら、拭いても拭いても流れてくる汗を、ほとんど無意識のようにぬぐい続けていた。

バングラデシュには、パルダ(purdah)という、成熟した男女を隔離するイスラム教と深く関わる社会的規範がある。成熟した男女の間で不必要な性的興奮が起きて、社会が無秩序にならないようにとの考えから生まれたものである。それはまた、家族の中の女性をよそ者の男性から守るという考えでもある。実際には、パルダは女性の行動を規制し、教育、医療、その他の社会的活動から女性を遠ざける結果になっている。初潮を迎えると、少女は成熟した女性として扱われ、恥じらいのある従順で慎ましやかな女性となることを求められる。女性として望ましい、話し方や食事の作法などの基本的なことがらを始め、様々な規制により行動が制限される。正当な理由なく外出することは認められない。また、男性に素肌を見せないよう体を衣服で覆い、特に外出の際は、見知らぬ男性の目に触れないよう、ブルカで身を包み、家族・親族の男性の付き添いのもと出かけるのである。買い物途中のこの写真の女性は、ブルカに不満を感じていること、勝手に一人で出歩けないことなど(この日はおじさんと一緒にあった)を私に英語で語ってくれた。

国民の多くが貧困と戦っているこの国では、上記のようにパルダを厳格に守っているのは、女性が家の外で働いて収入を得なくても生活ができる、ごく僅かの



写真①：ブルカ姿の女性



写真②：レンガ工場で働く女性

裕福な中流以上の家庭である。それゆえに、パルダを守るというのは一つの社会的地位や階級を示す指標とも考えられている。一般的に都会より保守的といわれる農村においてはパルダを遵守しようとする傾向は強い。しかし、十分な農地を持っていない、父親や夫が病気や失業中、または離婚や死別で稼ぎ手がない、などの理由で、多くの家庭では女性が稼ぎ手であったり、または何らかの形で生活を支えている。近所の農作業を手伝う者、縫製工場で働く者、缶詰工場で働く者、男性の中に混じって炎天下の中、煉瓦を運ぶ者、と様々である(写真②)。そのような女性たちにとって、厳格にパルダを守ることと生きていくことは両立しない。

パルダに忠実でない女性は自分の住む地域社会で「ふしだら」という烙印を押されることがあるという。ところが最近では、バングラデシュが市場経済に深く関わり、特に輸出に力を入れ始めてからは、女性が家庭外で働き経済力を持つことが評価され始めている。パルダを守るのか、収入を得る道をとるのか、という選択を迫られた多くの女性たちは後者を選んでいる。

パルダは、経済開発の進展とともにかつての影響力を弱めつつあるようである。炎天下の中、あまりに不自然なブルカ姿の女性を見かけることは、ますます珍しくなっていくのではないだろうか。

(甲南女子大学教員)

## ミニコミ情報

(松香堂で扱っているミニコミの最新情報です)

- 「れ組通信No.106-新春対談『私が死ぬとき』～よりよく生きるために～/ほか」  
れ組スタジオ東京 1996年1月 400円
- 「れ組通信No.107-プライド/ほか」  
1996年2月 400円
- 「れ組通信No.108-アジア系レズビアンワーク日本は、総理府あてにレズビアン権利保障を要求する文書を送りました/ほか」  
1996年3月 400円
- 「プロシューム3月号-特集 離婚/ほか」  
大阪よどがわ市民生協 1996年3月 330円
- 「プロシューム4月号-特集 『ミドル世代のチャレンジ』アグリライフを選んだ夫婦たち/ほか」  
1996年4月 330円
- 「月刊むすぶNo.302-特集 体にやさしい住宅Ⅱ/ほか」  
ロシナンテ社 1996年2月 700円
- 「月刊むすぶNo.303-特集 死刑廃止にむけて/ほか」  
1996年3月 700円
- 「月刊むすぶNo.304-特集 障害児の高校進学を考える、ピープルファースト運動の広がり/ほか」  
1996年4月 700円
- 「あごらNo.214-『加害』と『被害』を考える/ほか」  
BOC出版部 1996年1月 810円
- 「あごらNo.215-新聞切り抜きに見る女の16年/ほか」  
1996年2月 2575円
- 「あごらNo.216-『お上』の正体を考える/ほか」  
1996年3月 883円
- 「パワーアップニュースVol.17-フェミニストカンセラーとして生きる 井上摩耶子さん/ほか」  
パワーアッププランニング 1996年3月 300円
- 「WIFE No.258-夜ごと寂しき受話器の向こう/ほか」  
グループわいふ 1996年3月 550円
- 「WIFE No.259-夫の過労死は他人ごとか?/ほか」  
1996年5月 550円
- 「月刊家族120号-特集 超水河期といわれる中で/ほか」  
家族社 1996年2月 300円
- 「女のからだからNo.127-過去の教訓を生かし、優生保護法・墮胎罪の撤廃を/ほか」  
女のからだから'82優生保護法改悪阻止連絡会  
1996年1月 300円
- 「女のからだからNo.128-『優生保護法』完全撤廃を求める要望書/ほか」  
1996年2月 300円
- 「女のからだからNo.129-女性の性器切除と人権侵害に反対し行動する女たちの会発足のご案内/ほか」  
1996年3月 300円
- 「アジアに生きる女たちの21世紀No.6-特集 貧困の女性化/ほか」  
アジア女性資料センター 1996年3月 1000円
- 「おんなの叛逆No.44-特集 北京世界女性会議 踏まえて/ほか」  
久野綾子 1996年2月 400円
- 「シネマジャーナルVol.36-特集 1995年読者参加大ベストテン/ほか」  
テス企画 1996年3月 800円
- 「We 4月号-特集 学校に風穴をあけよう/ほか」  
Weの会 1996年4月 600円
- 「ショワジールVol.44-対談:中島みゆきVS大貫妙子 生育過程に音楽が及ぼした影響/ほか」  
色川奈緒 1996年2月 300円
- 「ショワジールVol.45-特集 アンケート・性情報/ほか」  
1996年5月 300円
- 「HEARTあいNEWS No.10-母性神話をのりこえて/ほか」HEARTあいNEWS編集部 1996年4月 200円
- 「屋台村通信第6号-アンケート生殖医療の高度化について/ほか」  
屋台村通信 1996年3月 300円
- 「トランタン新聞Vol.24-特集 パートナーを考える/ほか」  
トランタンネットワーク新聞社 1996年3月 200円
- 「イヴィヴVol.3-特集 稼ぐ女たち/ほか」  
トランタンネットワーク新聞社 1996年2月 500円
- 「マイマイ族第29号-特集 都合のいい男/ほか」  
鈴木美和子 1996年4月 500円
- 「AMIE 7-特集 活字が消えてゆく/ほか」  
アミ編集者学校 1996年4月 500円
- 「JAPANESE WOMEN No.75-Japanese Delegation Represented at Beijing Conference/ほか」  
市川房枝記念会 1996年3月 103円
- 「女性史学第5号-現代ビルマにおける女性文学の役割/他」  
女性史総合研究会 1995年7月 1000円
- 「女性解放を闘う労働運動を創りだそう」  
第4回労働者女性解放全国集会実行委員会  
1995年12月 500円
- 「『夫婦別姓』という挑戦」  
夫婦別姓選択制をすすめる会 1995年3月 1000円
- 「世界の姉妹と出会いの旅-日本婦人会議訪中団第4回世界女性会議NGOフォーラム参加報告」  
'95日本婦人会議訪中団 1996年2月 800円
- 「日本における売買春、性的搾取反対活動」  
売買春問題にとりくむ会 1995年11月 600円
- 「くらいす in 東大阪-ネットワークを作ろう/ほか」  
くらいす編集室 1996年2月 1400円

## 連載 第56回

## ミニコミの女たち

〈「夫婦別姓」という挑戦  
—10年を記念して〉 (1000円)

夫婦別姓選択制をすすめる会

1984年10月、たった3人の女性たちによって作られた「夫婦別姓選択制をすすめる会」は、一昨年10年目の節目を越えた。現在、会員は全国に約250名、発行し続けた通信は70号になろうとしている。

「夫婦別姓は家族の一体感をそこなう」「通称ではないではないか。法を変える必要はない」「子どもがかわいそう」等々。会の出発点である第一回目のアンケート(85年8月)には、夫婦別姓を認める法改正に賛成が多数を占めるなか、このような反対意見も寄せられた。今、民法改正法案は国会を目前にしながら、10年も前とまったく同じ言葉で反対を唱える人たちのために、上程すら危ぶまれている。

確かに世間はなかなか変わらない。根強い反対論や感情的な拒否反応も跡を絶たない。それでも「別姓」を取りまく世の中は少しずつだけ風通しがよくなってきたと思う。「わたしは、わたしの姓で、わたしの生を、生きたい」と言い続けてきたことで、私たちの運動も窮屈な世間や常識にひとつの風穴をあけたと自負している。

「結婚したからって名前を失うのはイヤだ」との思いから会に参加し話し合ったり、なぜ姓にこだわるのか自問するうち、「個」や「選ぶ自由」を認めない社会のおかしさが見えてきた。そんな社会や法律を変えようという外への働きかけは私たちの運動の目立つ部分だけれど、そればかりでなく、私たちが常に「なぜ姓にこだわるの?」と自分自身に問いかけ、考え続けてきたことが、大きな別姓運動だったと思う。そんな、会の、そして会員一人一人の10年間の運動史と、アンケートや新聞記事などにみる世論の変化を一冊にまとめ、10周年記念誌として刊行した。



10年を記念して

# 夫婦別姓 という挑戦

夫婦別姓選択制をすすめる会(株)



第1章、会の運動史は第1号から64号までの「夫婦別姓選択制をすすめる会通信」をもとにこの10年間の活動をふりかえり、第2章では、15名の会員と投稿の呼びかけに応じた各地の別姓の会の人たちが、自分の言葉で一人一人の運動史と自分にとっての「なまへの重み」を書いた。また、第3章の新聞記事、第4章の会が行った5つのアンケート、そして第5章の子どもたちへのアンケートの各章からは、別姓をめぐる世論の変化や意識を読みとっていただけるものと思う。第6章では民法改正の試案が出された段階での今後の展望や、私たちが目指す運動の方向を示した。

そして、今年2月、法制審が民法改正案を答申、いよいよ別姓実現かというところまで来て足踏み之余儀なくさせられているのが現状だ。反対派をどう抑えるかだけでなく、別姓を実現するには、家名を残すための「別姓」やワーキングネームだけの「別姓」という、家意識や性別分業を助長する「別姓」派とも手を携えるのかなど、問題は山積している。今こそ私たちの別姓運動の原点に戻って「夫婦別姓」の質を問いたい。第1章の締めくくりの言葉どおり、「運動は今は正念場」なのだ。

連絡先：〒206東京都多摩市鶴牧5-34-3-201

中島勝枝方 Fax. 0423-56-6516

※松香堂でも扱っています。

## =書 評=

## 『家族手当の研究—児童手当から家族政策を展望する』

大塩まゆみ著 法律文化社 1996年3月 8240円

一つの著作の評価にはいろんな扱いがある。著者がその主題について意図し検証しようと希ったものがどこまで書き切れているか、どうか、私はこのあたりを重くみたいと考えている。本書は、著者として希ったこと、証したかったことをたいへんな研究上の苦難や、その紆余曲折を切り抜けてついに書き切った著作として高く評価したい。

テーマは、とっつきにくい家族手当の研究である。大著でもあり、こうした著作の常で定価も決して安くはない。一書を購入してただちに詳読とはいかない著作である。しかし、私は女性問題・家族問題の各般からフェミニズム、ウーマンパワー等の諸々の局面に関心があるならば、この“家族手当”という本書の主題には関心をつなぐ必要があると思う。

家族手当の研究はひろく社会科学、政策科学としての社会保障研究の一環である。いま、介護保険のゆくえなど切実な領域であり、保険・医療・福祉サービスなどにも論議多彩である。しかしこの家族手当の分野は、研究者の層もうすく、関心も低い。結果として依拠すべき先行の業績も乏しい。わが国の現行の制度として「児童手当法」があるが、本書も指摘するようにまことにお粗末な制度で、それ故に関心、情報も希薄にならざるを得ない。

著者は、この研究、解明のむつかしい領域にうちこんで本書のような結実を得た。私は本書の序章にある研究目的、とくに女性の貧困化 (Feminization of poverty) への着目から家族手当研究への必然性へと辿るところにたんなる制度の各国の歴史、国際比較、現状分析に終わらない本書の意図、意味が一つの筋道として設定されていると考えている。

本書によって家族手当というあまり知見の乏しい制度—政策の内実、その形成、さらに私たちがいま全く不在に近いと考える家族政策への展望、精緻開拓的な論証をみることになる。家族手当そのものの所得政策のみならず、さきふれた女性問題、家族、扶養、サービス、すべて一定の社会的システムに媒介されるが、家族手当の意味するもの、可能性をふくめてその重要性がくっきりと摘出されている。専門書ではあるが家族政策、女性問題への広い関心層へ推せる好著である。

小倉 襄二 (同志社大学文学部教授)

上記の書評欄への投稿をお待ちしています。女性の目で見直した鋭い批評や、視点を変えたユニークなものをお寄せください。400字詰原稿用紙に約2枚、900字前後です。掲載させて頂いた方には薄々謝、進呈致します。

「あなたの情報・私の情報」とコラム「わたしの出会った本」は、知って欲しい本、ご意見・情報交換等に御利用ください。400字以内でお願いします。但しこれらの欄は、薄々謝も差し上げられません。ご了承下さい。

尚、ご投稿は会員に限らせていただきます。宛先は

〒602 京都市上京区下立売通西洞院西入  
松香堂書店「ウイメンズ ブックス係」  
です。

次号の締切は 1996年 7月20日。

たくさんのご投稿をお待ちしています。

※次号は1996年8月26日発行の予定です。

## 編集室から

☆言葉をもつことも、もたないことも、同じベクトルのはず。言葉によらない表現のすばらしさもある。では、なぜ、人は本を読むのか。それを読む人が、深く深く読み、たとえ幻想であっても、心を通い合わせる瞬間があるという快感を知ってしまったから。さあ、書を読んで、街へ出よう。(やぎ みね)

☆出口の見えないトンネルの中にいるとき、大切なのは「自分を信じる能力」ですよ。信じる者は救われる」とはよくいったものです。ここで紹介した本が、そんな基礎体力作りに役立つことを願っています。(いけしま ようこ)

☆近頃は起業を志す女性が増えた。特集で紹介しているように、起業の仕方を教えてくれる本も目だつ。ビジネスは厳しいが、女性ならこそ「志」を仕事にできるのでは。(とよこ)